

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

2009年度の理工学部の改組（2学科の新設等）に対応するため、新しいカリキュラムの編成を行った。これはカリキュラムの点検・保守にあたる常設のカリキュラムWGとは別に、新しいカリキュラムの設計を行う「カリキュラム委員会」により行った。新学科のカリキュラムを設計するとともに、カリキュラムWGで指摘されていた既存学科のカリキュラムの問題点に対しても対策を施した。

英語教育に関しては、「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の助成のもとで引き続き教育内容の充実を図った。入学時と2年終了時での英語能力を客観的に評価するためにTOEFL-ITPの試験を行ったところ、全学科で20点以上の伸びを示し、特色GPプログラムが成果をあげていることが確認された。合宿形式で行う「科学技術英語実習」については、2007年度から合宿前に2日間の集中講義を導入し、学生の意識高揚を図った。また、「関学英語フォーラム」の開催（年2回）、理工学部独自の英語教育用テキストの出版、e-learning用ソフトの導入を行った。特色GPプログラムは、2007年度に終了するため、2008年度以降の英語教育の目指すべき方向性に関して新たに英語教育検討委員会を設置して議論を進めている。

学内第三者評価

カリキュラムについてはこれまで持続的な取り組みとして行われてきた常設のWGによる見直し作業に加えて、改組に伴うカリキュラムの検討を通じた見直しが進んでいる。英語教育に関しては特色GPプログラム等を通じて成果をあげている。さらに、高い専任比率の割合を目標としてそれを達成していることは、本学部の特長として評価できる。

2007年度の記述内容の「【6.1.4】編入学試験に関する手続きの細則に関する課題」について、引き続き検討されることが望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。

カリキュラムに関して、きめ細かな点検・整備を不断に進めていることは評価できる。

特色GPに採択された英語教育の成果をTOEFL-ITPによって検証していることは、PDCAサイクルを機能させるのに有効な取り組みである。